

擧

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより

文責：内田 淳

令和6年 11月8日(金) Vol.27

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

「仲間も自分も大切に」「感動・感謝を大切に」
「団結・協力を大切に」「命を大切に」



【ホームページへ】

白衣も気持ちも新しく

本校PTAから、生徒の給食用の白衣を新調していただきました。これまで、各家庭で丁寧にアイロンがけなどをしていただき、大切に使用していましたが、経年劣化は避けられず、また、生徒の体格に合わないものも見受けられました。新しい白衣は、ゆったりサイズでノーアイロン仕様。しかも汚れが着きにくいというすぐれもの。PTAの皆さん、ありがとうございました。

先週から早速活用しています。各学級の給食当番たちは、食缶を運ぶ足取りも軽く、生き生きと配膳を始めていました。



【新しい白衣で身も心もパリッとなった、各学年の給食当番たち。新しい物って、気分が上がります】

人は花壇をつくり、花壇は人をつくる



【位置や間隔を確かめながら、一本ずつ割り箸でマーキング。完了後は草取りをしてくれました】



【写真左から、〇〇さんが根っこを取って、〇〇先生が土をほぐして、〇〇先生が仕上げに耕します】

本校の特長の一つ、花壇。生徒、保護者、地域の方、教職員が力を合わせて維持しています。この夏の猛暑で雑草に覆われてしまいましたが、〇〇先生や〇〇さん、そして、かつて本校の教員だった〇〇先生が根気強く耕してくれました。

1日(金)に行われた環境整備作業では、たくさんの保護者に、花を植える位置のマーキングと、周辺の草取りを実施していただきました。

用意したパンジーはまだ咲いていなかったため、今回はマーキングのみでしたが、今後、生徒たちが思い思いに植えていきます。やがてパンジーは冬を乗り越え、3月の卒業生を見送り、4月の新入生を迎えてくれることでしょう。花が命のサイクルを繰り返すように、花壇も、植えて、育てて、愛でて、抜いて、耕して、また植えて……と、そのサイクルを繰り返していくものですね。春なんてまだ先のこと、と思うかもしれませんが、卒業式まであと4ヶ月、入学式まであと5ヶ月です。「光陰矢の如し」とはまさにこのこと。早いものです。(……と書いている間に、少しずつ花が開き始めました。)

さて、保護者の方に花壇を整備していただいている間、生徒たちは、クラスごとに場所を分担して、草取りなどを頑張りました。普段の清掃は黙働ですが、環境整備作業となると、あちこちから元気な声が聞こえてきます。どのクラスも、実に生き生きと取り組んでいました。



【リヤカーとゴミ袋に、草や落ち葉を満杯にして、1年生が行く】



【力を合わせる2年生。ホウキ、ちりとり、ゴミ袋を手に、熱心に働いています】



【丈の短い草は抜きにくいですが、頑張っている3年生。作業の合間に笑顔でVサイン】

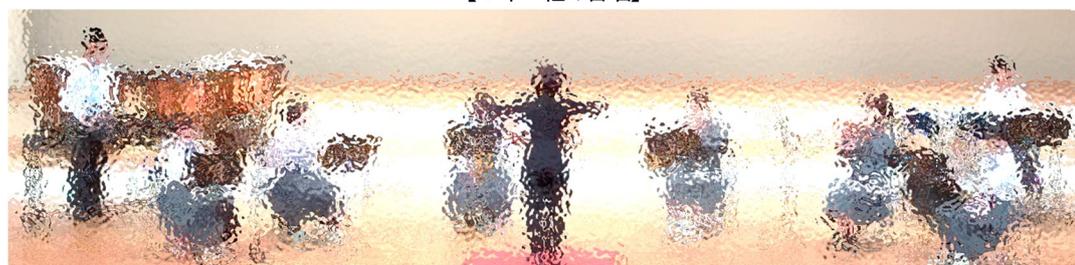
心を込めて音楽を



【3年A組の合唱】

6日(水)、「二部会音楽発表会」が開催され、本校からは、3年A組と吹奏楽部が出場しました。

3年A組の「群青」は、東日本大震災を背景に、故郷を離れて遠くに避難することになった中学生が、友を懐かしみ、寂しさを乗り越えて、きっとまた会おう、と呼びかける姿を描いた歌。不安な気持ちから、ほとばしる感情までの変化を、抑



【吹奏楽部の演奏】

揚を効かせて歌い上げました。当たり前前の生活のありがたさが、きました。

吹奏楽部の「アメリカ民謡ファンタジー」は、「わらの中の七面鳥」「ゆかいな牧場」など、誰もが聴いたことのある曲がちりばめられた、軽快なメドレー。先日の敬老会では、たくさんの手拍子とともに演奏しており、じっと聴いているだけではもったいないと感じました。8人の部員は、舞台の上で、緊張した様子を見せず、楽しそうでした。曲のイメージを上手に表した、素晴らしい演奏でした。

仲間も自分も大切に

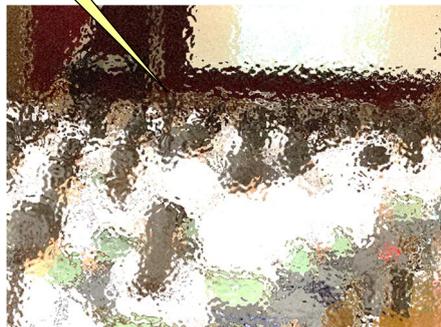
10月23日(水)、病院に勤務されている医師と、ソーシャルワーカーのお二方を講師にお迎えして、「いのちの授業」を行いました。「互いに支え合って生きること」や「多様性と共生社会」について、医療現場に立つ専門家から、経験談を交えた講話を聞きました。

終了後に生徒たちは、お礼状をしたためました。多くの生徒が心を動かされ、感じたこと、学んだことが、率直な言葉で書いてありました。素敵な内容ばかりだったので、ほんの一部を紹介します。

親は、自分のことよりも、子どものことを大切に思って生活している。…そう考えると、自分のできる最大限のことを恩返しできたらいいなと思いました。(3年生)



これからは、何事も否定から入るのではなく、「こういう考え方もあるのか」と、一度自分の中にその考えを受け入れる、ということ意識したいです。(2年生)



地震の被災地だけでなく、普段の町中でも、困っている人に対して、自分ができていることを考えたいです。そのために、まず自分の命を大切にしようと思いました。(1年生)

